

第2回アリーナ整備検討会議 次第

日時：令和6年9月26日（木）14時～

場所：岡山市役所本庁舎 3階 第3会議室

1 開 会

2 あいさつ 座 長 大森 雅夫
副座長 松田 久

3 内 容 (1) 事例紹介 沖縄アリーナ
講師：沖縄アリーナ株式会社 代表取締役社長 安永淳一氏
(2) アリーナ整備に向けた課題整理について
(3) その他

4 そ の 他

5 閉 会

配布資料 資料1 事例紹介 沖縄アリーナ
資料2 第1回アリーナ整備検討会議 発言内容まとめ
資料3 アリーナ整備に向けた課題整理表

アリーナ整備検討会議メンバー

氏名	所属及び役職名	摘要
大森 雅夫	岡山市長	座長
松田 久	岡山商工会議所 会頭	副座長
田口 裕士	岡山市議会議長	顧問
高谷 昌宏	岡山商工会議所 副会頭	
延原 正浩	岡山商工会議所 スマート・ベニユール構想実現委員会委員長	
高橋 邦彰	岡山商工会議所 専務理事	
神崎 浩二	岡山県経済団体連絡協議会 事務局長	
野田 令	一般社団法人岡山経済同友会 地域振興委員会委員長	
長澤 健一	株式会社日本政策投資銀行 岡山事務所所長	
岩田 修	岡山市市民生活局長	
三村 聡	岡山大学 副学長	
三浦 孝仁	I P U ・ 環太平洋大学 体育学部長兼スポーツ科学センター長	
林 恒宏	岡山理科大学 経営学部経営学科准教授	
松井 守	公益財団法人岡山県スポーツ協会 専務理事	
高田 さゆり	岡山シーガルズ (岡山シーガルズ株式会社 取締役)	
中島 聡	トライフープ岡山 (株式会社TRYHOOP 代表取締役)	
羽場 誠	岡山リベッツ (株式会社岡山リベッツ 代表取締役)	
北川 真也	ファジアーノ岡山 (株式会社ファジアーノ岡山スポーツクラブ 代表取締役会長)	

第2回アリーナ整備検討会議 配席表

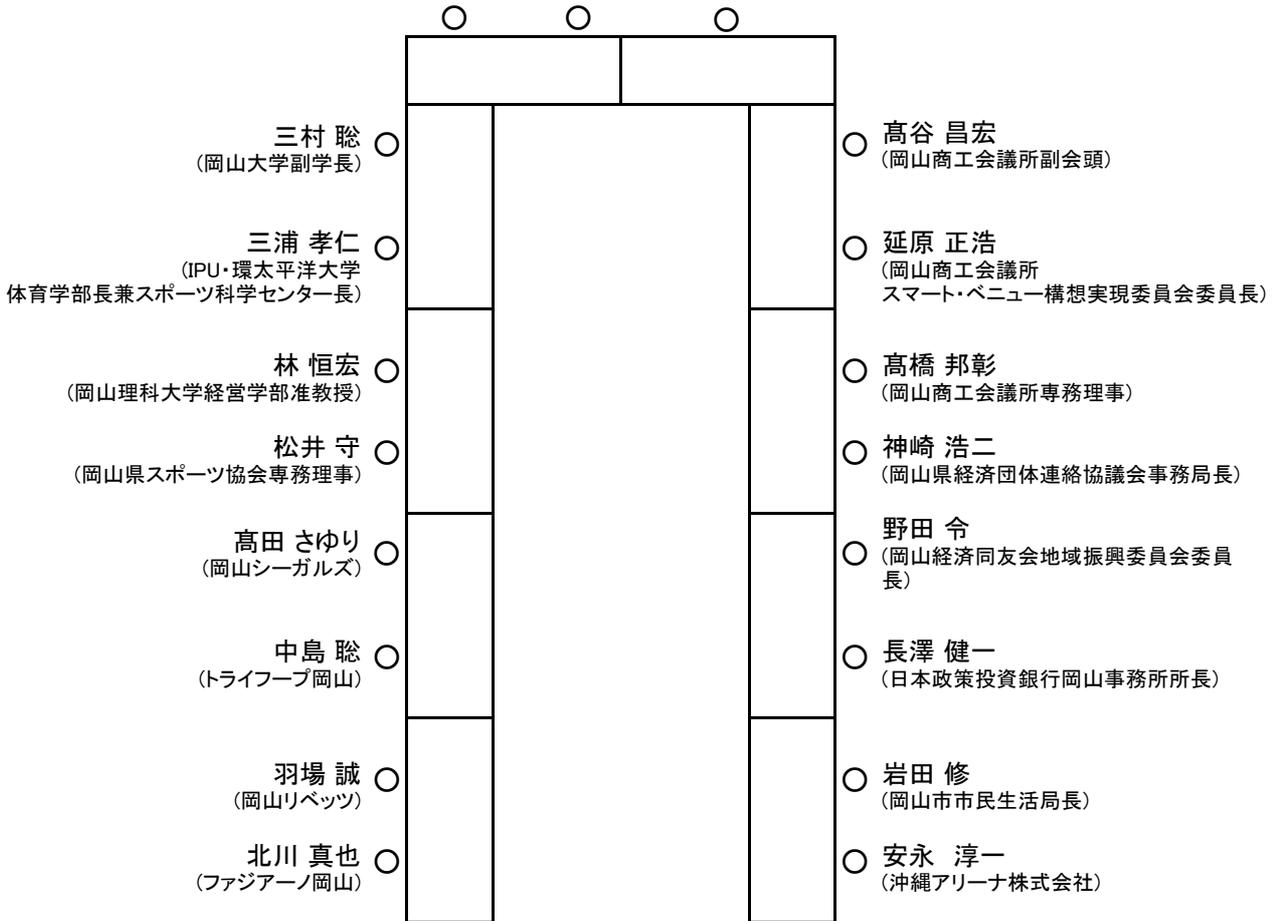
令和6年9月26日(木)14:00～15:30

市役所本庁舎第3会議室

田口 裕士 顧問
(岡山市議会議長)

大森 雅夫 座長
(岡山市長)

松田 久 副座長
(岡山商工会議所会頭)



事務局

随行者ほか

報道席

第1回アリーナ整備検討会議（R6.8.29） 発言内容まとめ

- 子供たちに夢を持ってもらえる施設に
 - ※魅せる、誇れるアリーナに
 - ※世界クラスのイベントが岡山で観られる
- 楽しめる、集える、新しいものが生まれる場所
- 量（席数、施設規模）より質（機能、設備）を重視したアリーナ
- 「やさしい」「また来たい」アリーナ
 - ※ユニバーサルデザイン、インクルージョン等に配慮
 - ※アクセスへの配慮
- スポーツのためではない、「市民のため」「地域経済のため」が主語となるべき
- 「稼ぎ出せる施設」「地域を稼がせる施設」へ
 - ※「コストセンター」から「ベネフィットセンター」へ
- 岡山をアジアに売り込む拠点（メディア機能、発信機能の強化）
- これまでは岡山の持つ立地の優位性を活かせるものがなかった

- 独立採算の運営をどの様に実現するか、運営主体をどう見つけるか
 - ※数字での積み上げによる運営の見える化
 - ※利用にあたっての制限をできるだけ設けない
- 魅力的なコンテンツ、魅力的なサービスを提供できるコンテンツホルダーの育成
 - ※スポーツチームのマネジメント力、集客力の強化
 - ※eスポーツ、アイスショーの誘致
 - ※イベントのないときにどう稼働させるか
- 他都市のアリーナとの差別化（DX）
- 多目的に利用でき、お客にも出演者にも使い勝手の良い施設
 - ※地域、利用者、観客、イベント会社、ハンデのある方々の声を反映するべき
- 設備（5～10年で陳腐化）を簡単に更新できる仕組みづくりが必要

- 生涯スポーツ、地域スポーツの活動拠点としての機能
 - ※慢性的な体育館不足への対応

- 経済波及効果の分析
 - ※単独でなくほかの施設との複合化の検討
- 北長瀬駅の改修が必要（JRとの連携が必要ではないか）

アリーナ整備に向けた課題整理表

R6.9.26 第2回アリーナ整備検討会議

「○」…第1回検討会議での指摘事項、「●」…基本計画等での記載事項

検討事項	項目	課題	検討内容	検討の方向性
施設規模	席数	最適規模の把握 ※基本計画は5,000席規模	○量（席数、施設規模）より質を重視すべき ○中四国最大規模を目指すべき ●コンサート誘致には、最低で6,000、8,000以上が良	・スポーツ利用で5,000席以上 ・コンサート利用で6,000席～8,000席規模
	渋滞対策	施設規模の拡大による渋滞等の混雑拡大	○JRとの連携が必要 ●基本計画で課題と施策を提案	・市の追加調査にて交通量調査を実施し、対応策を検討
	敷地形状	敷地形状の確定		・市道の廃止、付替え、道路拡幅等の調整 ・隣接地との調整 ※購入による敷地拡幅は行わない
運営体制	独立採算	運営実施者の目処	○独立採算の運営の実現 ○運営主体をどう見つけるか	・事業実施希望企業の掘り起こし ・関係事業者による座組
		エンタメ（コンサート等）の誘致	○誘致見込み件数の見える化 ○コンサート以外のコンテンツの掘り起こし	・市の追加調査において、業者ヒアリングを実施 ・民間事業者への直接ヒアリング
		収益の確保策	○コンテンツの魅力アップ ○世界クラスのイベントが見られる	・ネーミングライツの導入 ・VIPルームの販売による収益アップ ・コンサート以外のコンテンツの掘り起こし
		使用料の考え方	○利用者として独立採算できる使用料を支払っていく ○あまり制限をかけない	・市の追加調査において、業者ヒアリングを実施 ・独立採算の実現に向けた収入見込額の積上げ ・ランニングコストの精査
施設機能	DX	DXの具体化	○他のアリーナとの差別化 ○設備更新ができる仕組みづくり	・DX内容の具体化と設備更新の仕組みについて
	諸室の条件	VIPルーム等の設置条件 トイレの数	○やさしい、また来たいと思われる	・UDへの配慮 ・VIPルームの設置数と取扱い
	床の仕様	木床かコンクリート床	○使い勝手を良くするためコンクリート床 ○コンベンションに使いやすいように ○様々なステークホルダーの意見聴取 ●コンクリート床の意見が多数	・興行誘致に向けコンクリート床 ・サブアリーナは木床 ・関係者へのヒアリングの実施
財源調達	企業版ふるさと納税	寄附者の募集	○企業版ふるさと納税（物納も含）の活用	・市は企業版ふるさと納税の受入準備 ・寄附金（8億円以上）の募集開始
	国等の補助金の確保	有利な交付金制度の活用		・国の「安全・安心交付金」の活用を目指す ・新たな交付金や有利な市債の活用を検討
	その他	一般寄附金の募集		・市内事業者からの寄付受入 ・クラウドファンディングなど追加取組み
機運醸成	署名活動	目標署名数に未達		・9/20時点の署名状況⇒
	アンケート調査	9月10日から開始		・9/20時点の回答状況⇒
	その他		○シンポジウムの開催 ○ワーキンググループでの検討	
その他	コンテンツの強化		○トップチームの集客力の強化 ○オープンイノベーションの促進 ○岡山をアジアに売り込む	・各チームの経営計画の策定 ・必要な設備についてヒアリング
	市民利用		○生涯スポーツ、地域スポーツの拠点としての利用	・サブアリーナの活用とジップアリーナとの利用調整